

もう冬の準備 その3

冬の準備は、まさしく春の準備です。春の準備とは、来年の準備です。

大学共通テストの雲行きがあやしくなってきました。英検とGTECの段取りについて、福島県高等学校長協会として詳細な部分の点検を、県教育委員会とともに11月5日に実施しようとしたところ、ついに延期が発表されました。恐らくは、来年度の英語4技能の検定について、福島県における対応は円滑に進むはずでしたが、令和7年度入試までの延期には驚きました。

しかし、英語4技能検定そのものについて、先送りとなってもその必要性は変わりません。まさしく、教育に政治が入り込んできており、今後どうなるかについては、国会の審議を待たないといけないのですが、あくまでも我々は本質を見過ごさないで行きたいと思います。

「身の丈」発言については、真意がどこにあるかはともかくとして、福島県の生徒にとっては、限られた条件の中で、できるだけ公正公平を担保しつつ、不利な状況にならないように手を尽くしてまいりました。文部科学省や大学入試センターの対応とともに、各業者の対応についても、丁寧をお願いしてまいりました。それでも、入試制度そのものについて、生徒一人一人にとっては大きな選択を強いられる場合があると考えます。情報を整理し、また情報を早く取捨選択し、不利な状態にならないよう手を尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

受験という手段において、目的の部分の間違えず、自分の将来を切り開く態度と大きな志を失わないように進むのが肝要です。

このことは、その先々にすべて関連してくるはずですが、目の前のことに右往左往しないで、大きな太い道筋をきちんと守ってまいりましょう。

今後の大学共通テストについても、毎年大きな変革が考えられます。学習指導要領の改訂に伴って、国語と数学のみではなく、理科や地歴公民においても記述式テストが導入されると思います。さらには、教科情報も導入されるという情報もあります。

教科情報については、コンピュータのプログラミングが、新しい学習指導要領に位置づけられておりますので、間違いなくプログラミングの学習が必要になります。これは一朝一夕に身に着けることは難しい内容です。簡単に言えば、小学生からの学習が必要になってきます。必然的に年度進行で、小学生や中学生の時代にある程度プログラミングの基礎を学び、高校では具体的にコンピュータのソフト開発について、プログラミング知識を積み重ねなければなりません。つまり、コンピュータ言語を詳しく操ることができる能力が必須となります。このようなことについて、我々も大きな変革を視覚に入れて今後対応してまいります。